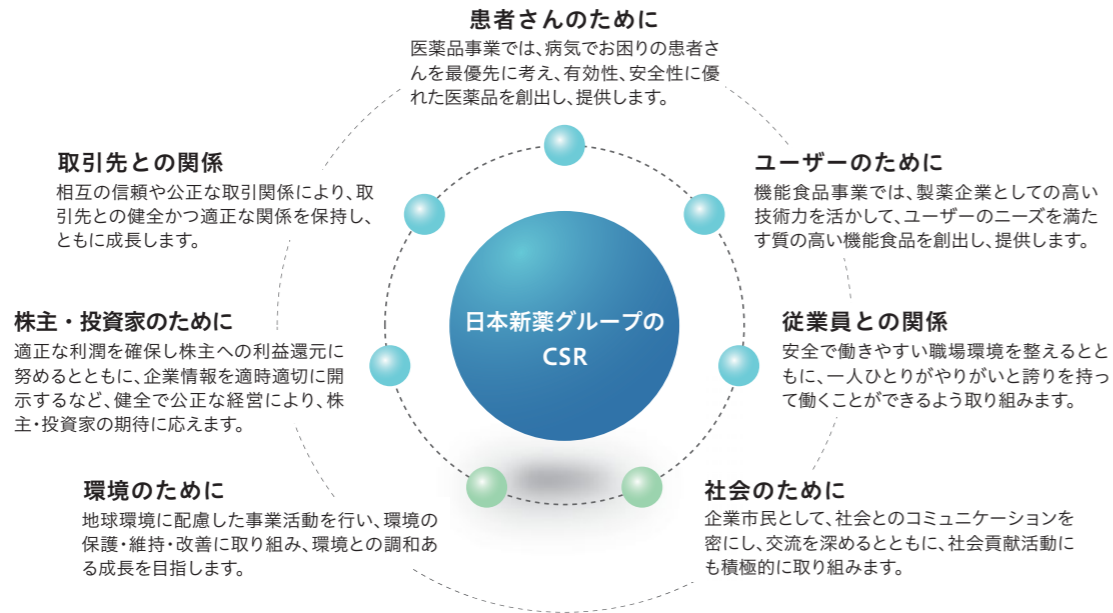


CSRマネジメント

CSRの推進についての考え方

日本新薬グループは、自らが考えるCSRを果たすためには、事業活動を取り巻く様々なステークホルダーの期待に応えることが肝要であると考えています。この考え方を具体的に示すため、ステークホルダーごとに行動方針を定めました。

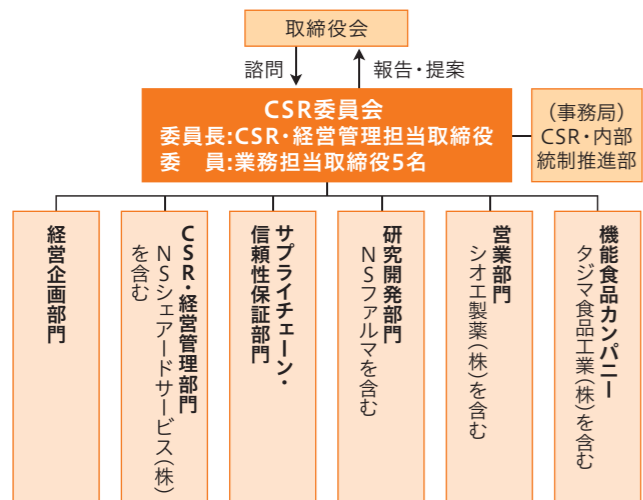


CSRの推進体制

日本新薬グループは、CSR基本方針をもとにグループ全体のCSR活動の充実を図るため、企業活動が社会の常識や期待に沿うものであるかどうかを確認し、各々の活動の方向性を定めることを目的として、CSR委員会を設置しています。

この委員会では、CSR活動の方向性や、各業務部門から上げられるCSR活動に関する重要事項について部門横断的に協議し、必要に応じて取締役会に報告・提案しています。

日本新薬グループのCSR推進体制図(2015年4月現在)



ステークホルダーとの対話方針

日本新薬は、CSRを推進し、「患者さん」「取引先」「ユーザー」「株主・投資家」「従業員」といったステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、対話することが重要だと考えています。そうした対話を通じて得られた要望や意見を企業活動に反映し、ステークホルダーへの責任を果たしながら信頼関係を築いていきたいと考えています。

そして日本新薬グループ全体として、ステークホルダーの皆さまからの期待に応えていくことこそが、企業としての成長につながり、ひいてはそれが社会の持続的な発展に貢献することになると考えています。

日本新薬グループ行動規範の策定

日本新薬は、経営理念である「人々の健康と豊かな生活創りに貢献する」ことを信条とし、医薬品、機能食品事業の持続的な発展に取り組み、「ヘルスケア分野で存在意義のある会社」を目指しています。

そのためには、当社グループのすべての役員、従業員が、経営方針として掲げている「高品質で特長のある製品を提供する」「社会からの信頼を得る」「一人ひとりが成長する」ことを実践する企業活動が何より大切だと考えています。

また、当社グループを取り巻く多くのステークホルダーの皆さまに期待され信頼されるためには、法令や社内規則を遵守することはもちろん、高い倫理観に基づいた公正で誠実な企業活動の実践が求められます。

そこで、当社グループでは、企業活動においてとるべき行動の実践基準を行動規範として定めています。

日本新薬グループの行動規範(2011年7月改訂)

I	私たちは、経営理念・経営方針に基づき、社会的責任を絶えず意識し、高い倫理観をもって行動します。また、法令および社内規則を遵守し、社会との信頼関係を構築します。
II	私たちは、生命に関連した製品を扱う企業の社員として、資質向上ならびに仕事の質の向上を図り、創造的に挑戦します。
III	私たちは、個人の人権・人格を尊重し、安全で快適な職場環境を維持します。
IV	私たちは、地球環境に配慮した事業活動を推進し、その維持改善に取り組みます。
V	私たちは、ステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーションを図り、企業情報を適時・適切に開示するなど、信頼関係を構築します。
VI	私たちは、政治、行政、取引先などとは、健全かつ適正な関係を保持し、公正・透明で自由な競争を実践します。
VII	私たちは、情報資産を含む会社資産の価値を十分認識し、適正に取り扱います。
VIII	私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力や団体からの不当・不法な要求には応じません。
IX	私たちは、社会の一員として、社会貢献活動に積極的に取り組みます。
X	私たちは、国際的な事業活動においては国際ルールや現地の法令を遵守することはもちろんのこと、現地の文化や習慣を尊重します。

人権の尊重

日本新薬は個人の人権・人格を尊重し、その主体性と創造性が最大限に発揮されることで企業も発展すると考えています。特にハラスメントは個人の人権を傷つける重大な問題ととらえています。日本新薬グループでは、あらゆる形態のハラスメントの発生を防止し、良好な職場環境を維持することを目的にハラスメント防止規程を制定し、運用しています。またコンプライアンス研修などによりハラスメント防止に取り組んでいます。

研究開発における倫理的配慮

日本新薬では新規医薬品等の研究開発の各段階で、人権や動物福祉にも配慮した実施体制を整えています。

人に対する薬の安全性や有効性を予測する基礎研究では、人体由来の試料(細胞、組織、血液など)の提供者への倫理的配慮のため、国の倫理指針(「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等)に従って社内規程を定め、社外委員を含む「研究倫理委員会」で公正・厳正に審査し審査情報も公開しています。

また人での有効性・安全性を確認する臨床試験(治験)では、参加される患者さんの人権および個人情報の保護、安全の確保、福祉に対する配慮を最優先しています。薬事法やGCP※1などの各種規制を遵守するとともに、「社内治験審査委員会」で臨床試験の倫理的、科学的な妥当性を審査し質の高い臨床試験の実施に努めています。

さらに薬の安全性や有効性を確認する動物実験では、動物福祉の観点から関連法令やガイドラインに沿って社内規程を定め、すべての動物実験について「動物実験委員会」で3R※2の原則が適切に配慮されていることを確認しています。

※1 Good Clinical Practice : 医薬品の臨床試験の実施の基準
 ※2 代替法の検討(Replacement)、必要最小限の動物の使用(Reduction)、動物の受ける苦痛や不快の軽減(Refinement)

社会との信頼関係のさらなる構築に向けて

企業が社会からの信頼を得て、持続的に発展するためには、経済・社会・環境の3つの側面をとらえた企業経営が重要です。

日本新薬グループは、経営理念「人々の健康と豊かな生活創りに貢献する」を事業活動の軸として、高齢社会のニーズに合致した泌尿器系の薬剤のほか、難病で苦しむ患者さんの福音となるべく、血液がんや肺高血圧症などの治療薬や人々の健康を維持するための機能食品の提供を通じて社会に貢献していきます。また、「日本新薬こども文学賞」をはじめとする社会貢献活動の推進、女性の活躍推進プロジェクト「マルエヌサブリ」活動の推進、さらに環境保全の取り組みの一環として、絶滅が危惧される植物の保護・育成など生物多様性の保全にも注力していきます。

今後も、「ヘルスケア分野で存在意義のある」会社を目指して、高い倫理観を持ち、種々のCSR活動を推進して社会との信頼関係をより一層高めるよう精励していきます。



取締役
CSR・経営管理担当
由良 能郎